

「平成29年度実践的な手術手技向上研修事業に関する評価報告」

H29年度 CST実施実績(見込み)

分野	テーマ	参加人数	実施日
産婦人科学	婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術	13	H29.11.11
救急・災害医学	外傷手術手技研修	24	H29.11.15
救急・災害医学	外傷手術手技研修	22	H29.12.13
形成外科学	指動脈皮弁術・橈側前腕皮弁術・神経剥離術	24	H29.12.16～17
脳神経外科学	経蝶形骨洞手術	41	H30.1.6
脳神経外科学	頭蓋底手術、脳動脈瘤手術シミュレーション	18	H30.1.7～8
消化器・小児外科学	上下腹部腹腔鏡下手術	34	H30.1.13
麻酔科学	神経ブロック、インターベンショナル治療	24	H30.1.20
救急・災害医学	発展的外傷手術手技研修(肺、肝、腹部大動脈、骨盤・下腿)	29	H30.1.24
救急・災害医学	外傷手術手技研修	20	H30.2.14
口腔外科学	インプラント関連手技(上顎洞底挙上術、腸骨・脛骨採取術)	25	H30.2.17
救急・災害医学	外傷手術手技研修	22	H30.3.7

CST実施件数	12	使用ご遺体数	13
---------	----	--------	----

(実施機関名：東京医科大学)

東京医科大学CST組織の概要

サージカルトレーニング担当者委員会

統括:人体構造学分野

委員長:主任教授
議長:実務担当者

副議長:
救急・災害医学分野 実務担当者

審議・検討事項

- ・実施計画
- ・利益相反の状況
- ・実施に関わる経費
- ・実施報告と評価
- ・その他

救急・災害医学分野

主任教授, 実務担当者

麻酔科学分野

主任教授, 実務担当者

脳神経外科学分野

主任教授, 実務担当者

口腔外科学分野

主任教授, 実務担当者

産婦人科学分野

主任教授, 実務担当者

消化器・小児外科学分野

主任教授, 実務担当者

形成外科学分野

主任教授, 実務担当者

大学研究支援課

大学会計課

医学倫理委員会

申請
承認

報告
承認

日本外科学会CST委員会

H29年度 CST開催で得られた効果・課題

分野	cadaver固定法	受講料	見学料	得られた効果	課題
産婦人科学	SSS	14000円	—	全腹腔鏡下子宮全摘術、腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術、腹腔鏡下広汎子宮全摘術に関する習熟度が上昇した。	載石位がとれない、出血モデルではない、腹腔鏡器具のレンタル代が高額
形成外科学	SSS	15000円	—	順行性指動脈皮弁・逆行性指動脈皮弁・橈側前腕皮弁・中手動脈皮弁に関する習熟度が上昇した。	cadaverによって手技に適した個体差がある、血管が色調のみで区別し難い、直前キャンセル受講生の受講料徴収の問題
脳神経外科学 (経蝶形骨洞手術)	SSS	50000円	10000円	特に経鼻手術における鼻粘膜弁作成、鼻腔内操作、難易度の高い腫瘍摘出、鞍底硬膜縫合への自信が深まった。	他固定法(新鮮凍結法, Thiel法)を経験している講師からも高い評価を得ており、SSS法の普及が望まれる。
脳神経外科学 (頭蓋底手術)	SSS	無料	—	多くの受講生が毎年受講しており、高難度の頭蓋底手術の習熟度向上が実感可能。前年度の臨床を通じた課題の確認も可能。	学内関係者を対象とした開催のため、助成金がないと開催継続が困難となる。
消化器・小児外科学	SSS	無料	—	生体に近い手術研修が可能。修練医の技能に合わせて丁寧に時間をかけて指導することが可能。自らの技量が再確認可能。	臓器層の露出などは生体に近い印象だが、血管の同定はしにくい。
麻酔科学	SSS	9000円	—	参加者のレベル(医師経験年数や神経ブロック研修歴)を問わず、神経ブロックに関する習熟度が上昇した。	透視装置等の機器は常設でないため、搬送費を含めたレンタル代が高額になる。
口腔外科学	SSS	40000円	—	全手技で習熟度が上昇したが、特に腸骨採取手技では、習熟度平均点の上昇が高かった。	cadaverによって開口量や軟部組織の柔軟性で個体差がある、CT画像と比較が出来るると更に効果的
救急・災害医学 (外傷手術)	FA	10000円	無料	全手技で習熟度が上昇した、CST開催を通して他施設医師との情報交換・共有も可能	FA法を使用するため、損傷臓器アプローチ法が主体で、修復術はあまり行えない。
救急・災害医学 (発展的外傷手術)	SSS	20000円	無料	ベテラン医師をも対象に、臓器切除・修復術等の高難度手術の研修が可能。	非常に好評であるが、年1回の開催のため受講者数に制限が掛かる。

SSS: 飽和食塩溶液固定法 FA: ホルマリン固定法

(実施機関名: 東京医科大学)

H29年度 CST開催における追記

➤ 参加費について

- CST使用cadaverの火葬が翌年度7月となる大学事情より、厚生労働省事業費から拠出が出来ない火葬費を、各分野(科)の使用cadaver数(延べ)に応じて参加費として徴収している。

➤ CST開催における全分野(科)共通の課題

- 上記火葬費以外にもレンタル費や消耗品費、他施設からの講師招聘等で経費が嵩むため、厚生労働省事業費が得られないと継続しての開催は困難。また、各種機器等は臨床用との兼用は困難であり、備品としての購入を認めてもらいたい。その他、施設整備に対する補助も望まれる。

➤ CST事業の啓発について

- 誌上報告を含め、各分野(科)とも学会発表等を通じてCST事業の有用性を広くアピールしている。

➤ 他委託事業者(大学)との連携

- 救急・災害医学分野は、『献体による外傷手術臨床解剖学的研究会』を他大学でも現地開催し、全国で広く受講が出来る様にヨコの連携を強めている。
 - H29 10/20 : 愛媛大学医学部(救急航空医療学講座 主催)での開催
 - H29 10/22, H30 3/24 : 北海道大学医学部(消化器外科Ⅱ 主催)での開催
 - H29 2/18 : 産業医科大学医学部(救急医学 主催)での開催